

拝啓 出版者様 タイトルページ等における書誌情報は、分かりよく表現していただけないでしょうか¹⁾ —記述精密化の流れのほとりに—

志保田 務

まえがき

RDAは、原著（著作）、加工、著作から個別資料までの諸レベルにわたり、書誌的事項等を分別、精確に把握・記録しようとする。この行き方は確かな道筋であり、本誌の愛読・編集を通じてその経過、成立論議、内容等に接し、²⁾ 刺激を受けている。

こうした書誌的記録の精緻化は、提供側（出版者・著者など）が標題紙などに記している情報源の曖昧さで難しくなると考える。タイトルページ（標題紙、以下「TP」）など主たる情報源上の表示が十分でない場合、アクセスポイントなど書誌的記録全体に影響する。

<検討 —論展開の順—>

①提供側情報の表示（情報資源）に曖昧さがある4点の情報源を例にあげ、そのTPのおもて面（以下、「TP表」）、うら面（以下、「TP裏」）を写真的に転写（抽出を含む）した。

②次に各情報源に対して異なる書誌作成機関が作成した書誌的記録を並行的に示した。

③以上を材料に同じ情報源に対する書誌的記録に相違がある事実を把握した。相違の多くは、責任表示関係で、共著、翻訳、解説が存する出版物に多いことを把握した。

④この相違出現の素因が、出版側の情報資源上の曖昧さに発すると考察した。

<結論 —検討の着地点—（予定）>

以上の検討に基づき図書館関係の出版物において、書誌的記録作成上に支障、紛れの無い程度に情報源での表示を整えたいむね自戒を含め訴える。それが図書館利用者、目録検索者、更に書籍の購入者、出版者にも益すると主張する。これが本稿の目的、結論である。

検討の性質上、情報源、書誌データの転写に多くのスペースをとった。お断りしておく。

1 単著か共著か

最も単純な例として、単著か共著か不明な出版物を示す。TP表だけで見ると単著と見るほかないが、TP裏によると共著であるようである。

<情報源例A> TP表面

図 書 館 原 論 森耕一著
図 書 館 学 大 系 第 1 卷
全国学校図書館協議会

TP裏

「図書館学大系」編集委員		
芦谷 清	岩猿敏生	笠原良郎
北嶋武彦	佐野友彦	塩見 昇
竹内 愨	津田良成	森 耕一
本 書 執 筆 分 担		
森耕 一（第1章、第3章、第4章、第5章）		
川崎良孝（第2章）		

(TP表とTP裏の大きさは同じだが、文字数の関係で、TP裏の側を大きく表した。)

<情報源例 A に対するデータ記録例 1 A1> NII Webopac における記録>

公立図書館原論 / 森耕一著<コウリツ トショカン ゲンロン>. -(BN01042555)

東京 : 全国学校図書館協議会, 1983. 4

212p ; 23cm. -- (図書館学大系 / 芦谷清 [ほか] 編 ; 第 1 巻)

ISBN: 4793320015

著者標目: 森, 耕一

分類: NDC8 : 016.2 ; NDC8 : 010.8 ; NDLC : UL5 件名: 図書館

<情報源例 A に対するデータ記録例 2 A2> NDL OPAC における記録

請求記号 UL5-3

タイトル 図書館学大系. 第 1 巻

責任表示 芦谷清 [ほか] 編集

出版地 東京

出版者 全国学校図書館協議会

出版年 1983. 4

形態 212p ; 23cm

各巻タイトル 公立図書館原論 / 森耕一, 川崎良孝著 (以下、略)

『日本目録規則』1987 年版改訂 3 版 (以下、NCR1987ⅢR) は次のように定めた。

2.0.3.2 (各書誌的事項の情報源) 各書誌的事項の情報源は、次のとおりとする。

ア) タイトルと責任表示……標題紙 (標題紙裏を含む)、奥付、背、表紙

データ記録例 A1 は TP の「表」の情報に従ってか著者を「森耕一」一人としたが、上記規定を徹底すると、本件の書誌的記録は TP 裏までを見ることが必要であり、データ記録例 A2 のように著者に「川崎良孝」を加えるべきであろう。しかし元々の TP 表と TP 裏の情報の提示に曖昧な差異があり、全国的に共有される書誌データ間に相違を生じている。森耕一氏が上記の図書の TP 表において、なぜこのような著者表示をしたか。知るよしもない。

2 「解説者」の前に見え隠れする「著者」

<情報源例 B> TP 表

TP 裏

JLA 図書館実践シリーズ 15

図書館の歩む道

ランガナタン博士の

五法則に学ぶ

竹内哲 解説

日本図書館協会

A commentary of the Five Laws of Library Science

-- What I Learned from Dr.Ranganathan

The Main part of this book is an abridged, free translation of Dr. Ranganathan's *the Five Laws of Library Science*, 2nd edition. Translating the text and publishing it was approved by the Sarada Ranganathan Endowment for Library Science, Banglore, India.

(TP 表と TP 裏の大きさは同じだが、文字数の関係で、TP 裏の側を大きく表した。)

<情報源例 B に対するデータ記録例 1 B1> NDL OPAC における記録

請求記号 UL11-J28
タイトル 図書館の歩む道：ランガナタン博士の五法則に学ぶ
責任表示 竹内[サトル]解説
出版地 東京
出版者 日本図書館協会 // ニホン トショカン キョウカイ

(以下)、略

このデータ記録例 B1 は転写 (NCR1987ⅢR1.0.6.1 転記の原則) に従ったのであろうが、その転写対象が TP 表にとどまり、TP 裏に及んでいない。上記の書誌的記録の下部 (当方の情報源コピー作業では記載を省略した) で NDL は「個人著者標目」を「竹内=(1927-)// タケウチサトル」のみとしている。責任表示関係事項が「竹内哲解説」だけであり、こうした記述の下で「ランガナタン」は著者検索上のアクセスポイントとされないようである。

しかし「解説」であるから、解説の対象、つまり解説の元の相手が存在するはずである。「元」が如何なる形で解説書という JLA のこの出版物に移動されているのか、あるいはこの本は元と解説が渾然一体となって「著」に近いものか、不明である。「元」が英語で著され、その一部を翻訳したらしい面もうかがわれるので、ややこしい。この出版物は、下記のいずれと判断すべきか。

- ① 『図書館学の五法則』(の幾分か) を訳し、解説したもので著者はランガナタン博士。
- ② 全体的として同博士の五法則に学んで竹内氏が表した創造的著作 (エッセイ)。

後者 (②) とした場合「S.R. ランガナタン」は責任表示や標目としないこととなる。つまり上記 NDL OPAC の処理でよいことになる。しかし①に拠れば、「S.R. ランガナタン」は著者であり、責任表示として補記するなどし、標目指示を可能とする手立てが必要である。下記、データ記録例 B2 が行った記述はその実行と見られる例である。

<情報源例 B に対するデータ記録例 2 B2> NII Webcat における記録

図書館の歩む道：ランガナタン博士の五法則に学ぶ / ランガナタン [著] ;
竹内哲解説<トショカンノ アユムミチ>:ランガナタンハクシノゴホウソクニマナブ
(BB01976779)
東京：日本図書館協会，2010.4
295p, 図版 [2] p ; 19cm. -- (JLA 図書館実践シリーズ ; 15)
注記：欧文タイトルは標題紙裏による ; 原著“The five laws of library science.
2nd. ed. (1957)”の抄訳 ; ランガナタン略年譜: p47-52
ISBN: 9784820410003
別タイトル: A commentary of the five laws of library science : what I learned
from Dr. Ranganathan
著者標目: Ranganathan, Shiyali Ramamrita, 1892-1972 ; 竹内, 哲<タケウチ, サトル>
分類: NDC8 : 010.1 ; NDC9 : 010.1 件名: 図書館情報学

データ記録例 B2 の書誌作成作業では、TP 裏の情報に大いに依拠し多くの注を起こしている。ただ、注のうち「原著“The five laws of library science 2nd ed.(1957)”の抄訳」と記された内の「原著」なる表現は何か。訳の土台が原書であると何故注記するのか理解できない。また「abridged, free translation」を単に「抄訳」と和訳したのは不十分であろう。もっともデータ記録例 B2 の行った記述は敢闘賞のものである。それに比べると、出版者自身が情報源例 B の TP 裏に記載した CIP（下記、B3）は粗略と言わざるを得ない。

<情報源例 B に対するデータ記録例 3 B3> JLA によるこの本の CIP

図書館の歩む道 : ランガナタン博士の五法則に学ぶ / 竹内
 愼解説. — 東京 : 日本図書館協会, 2010. — 295p : 19cm
 — (JLA 図書館実践シリーズ : 15). — 原著 : The Five Laws
 of Library Science, 2nd. ed., By S. R. Ranganathan, 1957.
 — ISBN978-4-8204-1000-3

「空行」

- t1. トショカン ノ アユム ミチ al. タケウチ. サトル
 a2. ランガナタン. S. R. (Shiyali Ramamrita Ranganathan)

このデータ記録例 3 の問題点は「原著 : The Five laws of Library Science 2nd ed., by S. R. Ranganathan, 1957」と注記したことである。「原著」という見出しの座り具合が悪く、「抄訳」との注もない。ランガナタンを著者標目には出すための注なのであろうか。

3 「編訳」の前で揺れる原著と「著者」

英語に堪能な竹内愼氏には似たような手法での執筆が幾つかある。編と訳がからみ、原著とないまぜになっている感がある。また JLA が情報源 TP 裏に英文形でタイトルを表示しているが、こうした原著と翻訳関係が分かりにくい本では、原書名と間違われる恐れがある。同氏『図書館のめざすもの』(1997 年)³⁾も下記データや前記の『図書館の歩む道 : ランガナタン博士の五法則に学ぶ』と似たつくりとなっている。英語が得意な先生の啓蒙書のような感じをうけるのである。

<情報源例 C> TP 表

TP 裏

JLA 図書館実践シリーズ 15
 図書館の歩む道
 ランガナタン博士の
 五法則に学ぶ
 竹内愼 解説
 日本図書館協会

A commentary of the Five Laws of Library Science
 -- What I Learned from Dr.Ranganathan
 The Main part of this book is an abridged, free trans-
 lation of Dr. Ranganathan's *the Five Laws of Library
 Science*, 2nd edition. Translating the text and publishing
 it was approved by the Sarada Ranganathan
 Endowment for Library Science, Banglore, India.

(TP (TP 表と TP 裏の大きさは同じだが、文字数の関係で、TP 裏の側を大きく表した。)

<情報源例 C に対するデータ記録例 1 C1> NDL OPAC における記録>

請求記号 UL431-E2
タイトル ストーリーテリングと図書館：スペンサー・G・ショウの实践から
責任表示 竹内^マ編訳
出版地 東京
出版者 日本図書館協会
出版年 1995.3
形態 127p；19cm
注記 ショウの肖像あり
注記 スペンサー・G・ショウ博士略年譜:p123～127
ISBN 4-8204-9425-2
入手条件・定価 1400 円
全国書誌番号 95049803
個人著者標目 竹内, ^マ (1927-) // タケウチ, サトル

<情報源例 C に対するデータ記録例 2 C2> NII Webcat における記録

ストーリーテリングと図書館：スペンサー・G. ショウの实践から / 竹内哲編
訳<ストーリー テリング ト トショカン：スペンサー・G. ショウ ノ ジッセン
カラ>. -- (BN12425669)
東京：日本図書館協会，1995.3
127p；19cm
注記：スペンサー・G・ショウ博士略年譜：p123-126
ISBN: 4820494252
別タイトル：Storytelling and the library：the art and craft of Spencer G. Shaw
著者標目：Shaw, Spencer G.；竹内, 哲<タケウチ, サトル>

<情報源例 C に対するデータ記録例 3 C3> JLA によるこの本の CIP

ストーリーテリングと図書館：スペンサー・G・ショウの实践から / 竹内哲編
訳. -- 東京：日本図書館協会，1995 -- 127p；19cm.
ISBN-8204-9425-2 (以上の区切り記号使用具合は CIP のママ)
「空行 ママ」
t1. ストーリーテリ^マ ト トショカン a1. タケウチ, サトル a2. ショウ, スペ
ンサー G. (Shaw, Spencer G.)
S1. ストーリーテリ^マ ①015.8 (以上 3 行の行設定は CIP のママ)

本件も原著者にあたるかもしれないショウ氏をアクセスポイント（標目など）としてど
のように扱えばよいか分かりにくい。データ記録例のうち、C1：NDL OPAC はショウを標目
としていない。C2：NII Webcat と JLA の CIP はこれを標目とするが、いずれも責任表示や

それに準ずる注記などを設定していない。多分、タイトル関連情報「スペンサー・G・ショウの実践から」にアクセスポイント（著者標目指示）を出す根拠をおいたのであろう。

4 原著と訳者側の著の区別が難しいもの

下記の書は資料組織分野の研究者によるもので熱心に作られており、その「帯」に私が推薦文を呈した。ただ著者表示が複雑である。TP表上の表示の複雑さに人は驚くかもしれない。一見、ミルズ、田窪、吉田氏3氏の共著のようにもうかがえる。直接の関係者達には迷惑かもしれないが、私個人は誰に対すともなく、一種、責任のようなものを感じている。

<情報源例D> TP表

TP裏

資料分類法の基礎理論
ミルズ, ジャック 著
田窪直規 著, 監訳, 訳, 著
吉田暁史 著, 監訳
柏田雅明 松井純子
三浦整 山田伸枝
蔭山久子 訳
前川和子 川崎秀子 編
ブリス分類協会 原著

日外アソシエーツ

Chapters 2,3 and Bliss Classification Scheme 1977
Chapters 4, 5 and 8 of Bliss Classification Scheme :
Introduction and Auxiliary Scheme 2nd ed. first
published in 1977 are published as Chapters 2,3 and
5 by arrangement with Bowker-Saur, a division of
Reed Elsevier UK Ltd.

(TP表とTP裏の大きさは同じだが、文字数の関係で、TP裏の側を大きく表した。)

<情報源例Dに対するデータ記録例1 D1> NII Webcatにおける記録

資料分類法の基礎理論 / ミルズ, ジャック [ほか] 著 ; 田窪直規 [ほか] 訳
シリョウ ブンルイホウ ノ キソ リロン>. -- (BA30179303)

東京 : 日外アソシエーツ, 1997.1

309p ; 21cm

注記: 2・3・5章は Bliss Classification scheme の翻訳 ; 監訳: 田窪直規,
吉田暁史 ; 編者: 前川和子, 川崎秀子 ; 原著: ブリス分類法協会 ; 参考
文献: p306-307

ISBN: 4816914056

別タイトル: Bliss classification scheme

著者標目: Mills, J. (Jack), ; 田窪, 直規

(以下略)

データ記録例D1が「ミルズ, ジャック [ほか] 著 ; 田窪直規 [ほか] 訳」とした表示は

TP 表上に記された、訳者・田窪氏ら独特の表現からの転記である。ただ TP 裏にまで留意すれば通俗に照らして「[ジャック・ミルズほか著]」等と責任表示されたかもしれない。

〈情報源例 D に対するデータ記録例 2 D2〉NDL OPAC における記録

請求記号	UL653-G6
タイトル	資料分類法の基礎理論
責任表示	ミルズ・ジャック著
責任表示	田窪直規著・監訳・訳・編
表示	吉田暁史著・監訳
出版地	東京
出版者	日外アソシエーツ
出版年	1997.1
形態	309p ; 21cm
注記	訳: 柏田雅明ほか
注記	原タイトル: Bliss Bibliographic classification. (抄訳)
ISBN	4-8169-1405-6
入手条件・定価	3800 円
全国書誌番号	98034804
個人著者標目	Mills, Jack
個人著者標目	田窪, 直規
個人著者標目	吉田, 暁史

(以下略)

このデータ記録例 C2 の難点は、「ミルズ・ジャック著」と「・」（中点）をもって責任表示したことである。この本の TP 表がミルズの後に「,」（カンマ）を打った転置表示と違い姓が名と化した。なお日外アソシエーツ社の『図書館力をつけよう：憩いの場を拡げ、学びを深めるために』（近江哲史著, 2005）は同じ社が出している本書を次のよう批判した。

どうして図書館関係者の一部の人々の書く本は硬いのか。章・節と普通の本のように分けて書いてくれればよいのに、図書分類を応用したものか、数字ばかり並べて章節項目を羅列して、まるで読みにくい。例を一つ見てみよう。ミルズ・ジャック（マ）著、田窪直規他訳『資料分類法の基礎理論』（日外アソシエーツ）の第 3 章。章だけはどうか「章」を使っているが、その後は数字を並べて区分がなされている。（中略）こんな章だてで人が読むと思っているのだろうか。図書館屋さんは頭のなかまで図書分類法で固まっているらしい。これでも図書館の人は私たちに「奉仕」して下さっているのだろうか。（同書 p. 35-36.）

熱弁で、これが同氏を『図書分類からながめる本の世界』（日本図書館協会, 2010.12）の執筆に進ませる力かと拝察する。「,」（コンマ）でなく「・」（中点）を用い「ミルズ・ジャック著」と姓と名を取り違えたのは NDL OPAC の影響か、情報源上の迷彩表現に被災したのか。因みに近江氏は 2003 年同社から出した『図書館に行ってくるよ：シニア世界のライフワーク探し』p. 72 で “OPAC という言葉だが、これは「アウトライン・パブリック・アクセス・

カタログ」の略〔後略〕”と誤記した。⁴⁾ 図書館を愛する近江氏が同書で謝辞を捧げている日外アソシエーツ社編集部長等は、どのように氏を支え、関わってあげたのであろう。

まとめにかえて

前章末で少し間道にも踏み入ったが、全体的には、情報源上の表現に難解さがある場合、書誌的記録の作成に十全を欠くという事実をあげてきた。これらが RDA（など）は書誌事項等を分別し、精確に把握・記録せしめようとする行き方のかなで困難をもたらすことを指摘した。そうした困難の現れが、全国レベルの書誌作成機関を複数有する我が国において、各書誌作成機関（NDL OPAC と NII Webcat のデータ）⁵⁾ が作成する書誌的記録の間に差異がある事実を示した。なお、我が国において CIP データは日本図書館協会が自会発行の資料に付与するが、CIP データもまた上記二者のそれと異なっている。

こうした全国レベルの書誌機関の作成する書誌的記録の間に相違がある理由は、下記の理由によると考える。

- ① 複数の全国レベルの書誌作成機関は不要である。並立するならば、同じ様書誌データに関して他機関を参照し、調整すべきであるが、これを行っていない。
- ② 情報源上の表示の曖昧さ。

前者①の問題は、本論の範囲を越えるのでここでは論じない。②の關係に集中する。

情報源における表現の如何は全く自由の領域にある。しかしその情報源が情報を伝えた相手は当然、読者である。両者を繋ぐのが書誌的記録である。資料を正確に読者へ引き繋ごうとする書誌作成側が、明確な表現を初期情報に期待する理由はそこにある。

だが、世間一般にはそうした希望は出せない。表現の自由の侵害ともなりかねないからである。だが、せめて図書館関係の著者、団体、出版者あたりにはそうしたお願いを聞いていただけないかというのが当稿の本意である。「まずは隗から始めよ」である。

しかしこの方面、実は更に厳しいのである。図書館関係機関が自ら曖昧な情報源を付して出版し、それに基づいて粗略な CIP を自作するという流れには、甘えの連鎖が見られるからである。そこでは連鎖とはいいいながら、著作（の企画）、出版、書誌記録作成（CIP）が別々に作業される。これを、目録両面で図書館学的力量を有する 1 人の人が「編集長」的な地位につき、本気で統括し、著者に十分注文し、書誌作成を直に監督する構造と大転換できないか。そうできるならば、情報源上の表現の難解さは激減し、CIP への信用も回復するに違いない。ただ NDL OPAC があり、「新着図書情報の提供」も出現している今日、⁶⁾ 限られた出版者が CIP を付ける意味がどこまであるか、その効果は疑問である。

拙文はお断りするまでもなく、特定の著者、出版者、書誌作成機関を攻撃するものではない。指摘は私の著書に対しても当てはまろう。厳粛な気持ちでいる。

今般、更に情報源上のタイトル、版などに関する問題に至り、自著における版などの表示不良にも言及する所存であったが、一つの区切りに来た。以下は次稿に譲りたい。

注

- 1) 当標題は、棟田博著『拝啓天皇陛下様』講談社、1962. をもじった。（出版地略、以下同）
- 2) たとえば、古川肇著「書誌レコードおよび典拠レコードに関する規則の成立 - RDA

- の完成ー」『資料組織研究-e』59号（図書館資料組織化研究会，2010.10）p.13-32.
- 3) 竹内哲編・訳『図書館のめざすもの』日本図書館協会，1997，63p. [同書CIPに依拠]
- 4) 近江哲史著『図書館に行ってくるよ：シニア世界のライフワーク探し』（日外アソシエーツ，2003（初刷），p.72. 2004年の2刷も同様。p.194では正しく説明されている。
- 5) 両ウェブデータとも、2011年3月10日最終確認。
- 6) Current Awareness Portal (Oct.27/2010) <http://current.ndl.go.jp/node/17021>.
2011年3月10日最終確認

（しほた つとむ 桃山学院大学）

（受付：2011年3月27日）